

汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

1. 利用情報

教育機関名	鳴門教育大学		
学部・学科名	学校教育学部		
コース名・講座名等	学校教育教員養成課程		
対象学年・受講者数	1	年次	120 名（講座等の履修登録者数を記載してください）
講座実施期間	2014 年 4 月 ～ 2014 年 9 月		
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ <input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ <input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ		
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	1. 利用したコンテンツ		
	<input type="checkbox"/> ①シラバス	<input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例	
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド	<input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド	
	<input type="checkbox"/> ③講義ノート	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート	
	<input type="checkbox"/> ④演習課題	<input type="checkbox"/> ⑨ソースコード	
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書		
	2. コンテンツの利用方法について		
	<input type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用		
	<input type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用		
	(利用範囲)	
<input checked="" type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用			
(改変範囲)	パーソナルスキル(ジカルシンキング)養成 第1章～第11章、等		

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
	単元と時間配分(1コマ＝ 90 分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	* 短期集中講座の場合は、日単位で結構です	講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元でのコンテンツ利用の有無
1	1.イントロダクション(大学における情報環境, ガイダンス)	座学	無
2	2.情報リテラシー(情報収集, 問題解決, 情報活用, メディア)	座学	無
3	3.情報セキュリティ(最新動向, 事例分析, 対策, サイバーボランティア活動)	座学	無
4	4.図書館情報システムの活用	座学	無
5	5.学校とICT(教育の情報化, 情報教育, 情報環境設計)	座学	無
6	6.プロジェクト1(プロジェクトの進め方, 基本的研究手法, 問題設定, 問題解決)	座学	無
7	7.レポートのまとめ方(引用, 著作権, etc)	座学	無
8	8.思考と表現(水平思考・垂直思考, 論文・研究発表の作法, プレゼンテーション)	座学	有
9	9.基礎的情報理論と情報教育理論(情報と教育・人間形成, 情報と社会, 情報の科学, 知識基盤社会)	座学	無
10	10.情報表現(データの表現, 正規化, 半角, 全角, 表現のゆらぎ)	座学	無
11	11.SNSの利用(情報をいかに入手するか)	座学	無
12	12.情報モラル教育の基礎理論と情報モラル指導モデルカリキュラム, 利用可能教材	座学	無
13	13.子どもたちの情報環境(教育の情報化, 情報環境設計)	座学	無
14	14.情報環境の活用(最新動向, 協調環境, インタラクション, 電子教科書)	座学	無
15	15.プロジェクト6(発表会)	座学	無
特記事項	上記は、座学中心ですが、これに連動して、コンピュータ教室での実習が15コマ分加わる。		

コンテンツ利用の狙い・目的	プロジェクト研究を進めるうえで、さまざまな思考技術があるなかで論理的思考にどのような技術があるのかを理解する。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	必修。前提条件なし。
授業の進め方	大講義室による座学。
産学連携で実施した場合の 企業支援内容 (該当の場合のみ)	ありません。

2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	受講者の感想: 思考力を高める方法をいろいろと教えてもらえた。 whatツリーなどは、研究をすすめる際にも使える方法だと思う。
教員の評価	・本コンテンツに係わる学習内容の効果測定は行っていませんが、受講者の声から推測すると好評です。 ・クリエイティブシンキングとロジカルシンキングを分けて論じる立場をとっているため、本コンテンツとの前提が異なる点があるため、利用するときにそのような点を注意しております。
今後の展望 (継続に向けた課題)	次年度以降の利用は未定です。
その他(ご意見等)	とくにありません。